

## 障害者レクリエーションセンター 「スポレク★くらぶ」の設置 (第2報)

小倉 典行<sup>\*1</sup>・中村 智子<sup>\*1</sup>・池本光一郎<sup>\*1</sup>・廣石志都子<sup>\*1</sup>・前田 里絵<sup>\*1</sup>  
野村 健二<sup>\*1</sup>・中本千恵美<sup>\*1</sup>・松田 信夫<sup>\*2</sup>・杉浦 崇夫<sup>\*3</sup>

Establishment of a “Spo-rec Club” recreation center for persons with disabilities (2<sup>nd</sup> report)

OGURA Noriyuki<sup>\*1</sup>, NAKAMURA Tomoko<sup>\*1</sup>, IKEMOTO Kouichirou<sup>\*1</sup>, HIROISHI Sizuko<sup>\*1</sup>, MAEDA Rie<sup>\*1</sup>,  
NOMURA Kenji<sup>\*1</sup>, NAKAMOTO Chiemi<sup>\*1</sup>, MATSUDA Nobuo<sup>\*2</sup>, SUGIURA Takao<sup>\*3</sup>

(Received August 2, 2018)

キーワード：障害者スポーツ、レクリエーション、余暇活動、社会参加、地域貢献

### はじめに

障害者にとって、スポーツは社会参加という観点、特に機能回復や教育的な面において有効な手段であると考えられている。しかしながら、障害者は、余暇活動の機会が少なく、学校卒業後、あるいは帰宅後に家庭の中だけの生活になりがちである。

そこで、学校の所在する地域を中心としたレクリエーション等の余暇活動の場を形成することで、様々な人とのふれあいの場を提供し、障害者の社会参加を促す一助にしたいと考えた。これまで、一部の福祉施設ではレクリエーション等が行われているものの、その利用者は限られている。また、全国的にも学校を中心とした障害者スポーツセンターを運営している実践はない。学校がレクリエーションセンターを設置することは、地域の障害者や卒業生にとって参加しやすい環境をつくるとともに障害者スポーツの普及につながり、地域貢献につながると考えられる。

本プロジェクトは、「障害者レクリエーションセンター (通称「スポレク★くらぶ」)」を設置することで、障害者の余暇活動の充実を支援することを目指す。本プロジェクトは一昨年度より実施しており、昨年度は、年7回の活動を実施した。参加者のほとんどから「楽しかった」という感想と回数の増加を希望する要望があった。また、参加者や地域ボランティアによる自主的な運営ができるようにすることが課題となった。

昨年度の活動内容ならびに反省点を基に、今年度は回数を年15回に増やすとともに、参加対象者を見直し、ボランティアとして地域住民や山口大学学生を募集した。また、参加者に準備や片付け、準備体操等の運営に携わる機会を設定することで、自主的な運営を目指したり、障害者スポーツ協会主催の大会への出場回数や出場種目を増やしたり、社会参加を促進することなどに取り組んだ。

### 1. 本プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、以下のとおりである。

障害者の余暇活動の充実等を目的とする「スポレク★くらぶ」の運営の在り方を、実践を通して明らかにする。その際、当面は教員が主体となって運営するが、徐々に地域や参加者に運営主体を移行し、地域の活動へと発展させていく。

「スポレク★くらぶ」の取組を、学校から大学や地域へと広げ、障害者レクリエーションセンターが地域のセンターとなるようにする。(図1)

\*1 山口大学教育学部附属特別支援学校 \*2 山口大学教育学部特別支援教育 \*3 山口大学教育学部小学校総合

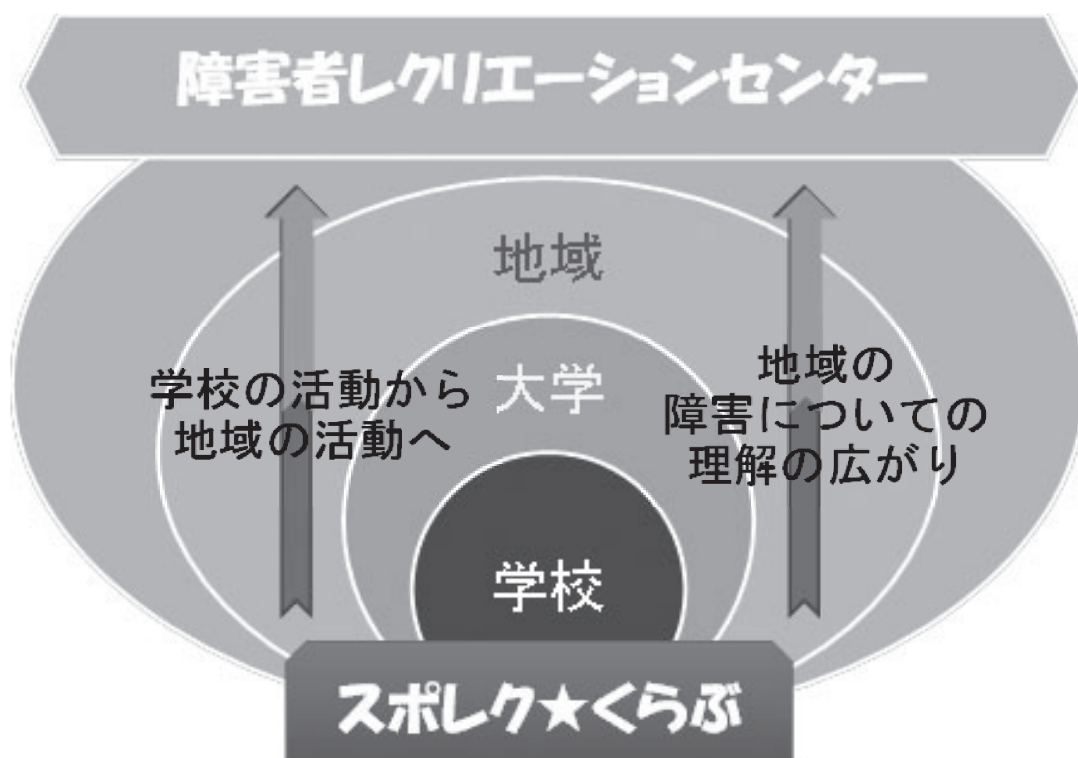


図1 障害者レクリエーションセンターの概念図

## 2. 方法と内容

「スポレク★くらぶ」の運営に当たって、次の点に留意した。

### 2-1 参加者数を確保し、安定した運営を行う

- ◆本校生徒に加え、山口大学業務支援室の職員（知的障害を中心とした17名の従業員）に参加を呼び掛け、一定数の参加者が常に集まるようにする。確保した一定数の参加者を基にし、新たな参加者を得るようにすることで、安定した運営ができるようにする。
- ◆保険代、用具代等は、本校教育後援会より支出し、資金面でも安定した運営ができるようにする。
- ◆山口大学教育学部や地域の公共施設等にポスターを掲示したり、リーフレットを配布したりし、ボランティアを募集し、運営の補助や参加者の支援を依頼し、人的な面でも安定した運営を目指す。（図4）

### 2-2 参加者のモチベーションの向上に向けて工夫する

- ◆大会への参加を目指すことで「スポレク★くらぶ」への参加意欲を高める。このため、実施種目は、県内で行われている大会につながる種目を中心に活動する。
- ◆参加者の実態に応じて準備や体操、片付け等の役割分担を行うことで、参加者の主体的な運営となるよう心がけ参加へのモチベーションとなるようにする。

## 3. 取組の実際

### 3-1 参加者の確保、ボランティアの募集について

参加者、ボランティアの募集については、以下のように行った。

- ◆年度始めに、本校中学部及び高等部生徒全員、山口大学業務支援室や近隣の小・中学校の特別支援学級の児童生徒に募集要項（図2参照）を配布した。本校生徒16名（中学部・高等部）、業務支援室8名、平川小学校2名、学生ボランティア1名の申込みがあり、追加申込みを含めて、各回40名程度の参加があった。（表1参照）

- ◆ 4月に山口県障がい者スポーツ指導員の方に指導の依頼を行い、2名が参加者支援に加わった。
- ◆ 6月に参加者からの紹介で本校出身の社会人1名が加わった。
- ◆ 7月に山口県障がい者スポーツ指導員の方の紹介で、ボランティア1名が参加者支援に加わった。
- ◆ 9月に教育実習生へボランティアの募集要項やチラシ（図3参照）を配付し、運営協力や参加者支援に加わった。
- ◆ 1月に、近隣の山口総合支援学校の高等部生徒に募集要項を配付し、1名申込みがあった。
- ◆ 2月に、筑波大学附属大塚支援学校より視察見学があり、参加者とともに障害者スポーツを体験した。

表1 H29年度スポレク★くらぶ参加者数

	本校生徒	山口大学業務支援室	その他(卒業生・研修生等)	学生ボランティア	指導員	合計
4月	16名	8名	2名	1名	0名	27名
5月	31名	15名	1名	1名	4名	52名
6月	16名	8名	2名	1名	2名	29名
7月	16名	7名	3名	0名	3名	29名
10月	33名	10名	0名	5名	6名	54名
11月	25名	9名	4名	6名	3名	47名
12月	17名	6名	0名	1名	3名	27名
1月	16名	5名	6名	1名	1名	29名
2月	24名	15名	15名 外部視察者8名含む	3名	3名	60名
3月	11名	6名	5名	2名	2名	26名

山口大学教育学部附属特別支援学校  
「スポレク★くらぶ」参加者募集!

「スポレク★くらぶ」は、放課後や就労後、障害者スポーツ等と合わせて、余暇を楽しく過ごすために設立しました。今年度も、地域の方にも参加を呼びかけ、以下のとおり開催いたします。たくさんの方々の参加を期待しています!

- 日 時 平成29年4月28日、5月12日、5月26日、6月9日、7月14日、8月16日、10月6日、10月20日、11月10日、11月24日、12月8日  
平成29年1月19日、2月2日、2月16日、3月9日 (全15回すべて全曜日)  
※休校日(すれど1・8号~1・9号(祝日のよい時期にご参加ください))  
※1回だけの参加でもよいです。  
※早川小学校の児童は、学年のみの参加を依頼いたします。
- 場 所 山口大学教育学部附属特別支援学校(体育館)
- 内 容 卓球/バレーボール・卓球/リレー・ボッチャ・フライングディスク・卓球など
- 対象者 山口大学教育学部附属特別支援学校中学生部・高等部の生徒の希望者  
早川小学校・中学校特別支援学校低学年生徒の希望者  
山口大学教育学部附属特別支援学校の希望者
- 持ち物 動きやすい服装、体育館シューズ、タオル、運動水、飲み物など
- 申込み 下記申込み書をもとに、申込書(※)または、紙の版の完成品を先方に提出してください。  
※印刷費は無料です。学校が複製費を納入します。
- その他 問い合わせ先:附属特別支援学校 生活指導課(TEL:083-933-5485(高等部))  
下記の「スポレク★くらぶ」を各府で取りまとめた小冊子までご連絡ください。  
..... まりとりせん .....

**スポレク★くらぶ 申込書** 資料内の必要事項を記入してください。

ふりがな	活動終了希望時刻(○をのける)
氏 名	17:00 17:30 18:00 その他( )
住 所	当日の下部方法(○でかこむ)
生年月日	平成 年 月 日 性別: 男( ) 女( ) 学年: 1( ) 2( ) 3( ) 4( ) 5( )
ふりがな	緊急時の連絡先
保護者氏名	印
保護者印	

【申込み切手・・・4月19日(水)までに、各府へ提出してください。】

図2 参加者募集要項

障害者レクリエーションセンター  
スポレク★くらぶ

「スポレク★くらぶ」って何をするの?  
放課後や就労後に障害者スポーツ等と合わせて、たくさんの方とふれあったり、協力したりして、体を動かして余暇を楽しむ活動をしています。

金橋までの地図

対象者

山口大学教育学部附属特別支援学校または附属立派学校に在籍中の方または併設された方(※)または自力での参加が可能です。

申込み・その他のお問い合わせ

〈事務 局〉  
山口大学教育学部附属特別支援学校  
TEL 083-933-5480 (代表)  
TEL 083-933-5485 (高等部)  
担当 生活指導部 小 倉 (おくら)

体育館シューズ、タオル、着替え、水筒などをご持参の上、動きやすい服装でお越しください。

図3 参加者・ボランティア募集チラシ





図4 参加者・ボランティア募集リーフレット

### 3-2 実施回数、種目について

- ◆実施回数を増やし、4月から3月まで（8月は除く）の計15回開催し、計画どおり実施した。
- ◆種目は、昨年度同様の風船バレー・卓球バレー・ボッチャに加え、卓球とフライングディスク等の県の障害者スポーツ大会で実施されている種目を中心に実施した。どの種目も、回を重ねるごとに参加者のルール理解度が上がり、満足度が高まっていった。（写真1、2、3、4、5）
- ◆フライングディスクの大会前には、体育館のみならずグラウンドで力いっぱいディスクを投げるディスダンス競技にもチャレンジした。



写真1 風船バレー 写真2 卓球バレー 写真3 ボッチャ 写真4 フライングディスク 写真5 卓球

### 3-3 大会への参加について

生徒の意見から、チーム名を「スポレク★ファイターズ」とし、以下のような大会に参加し、学校外での活動にも取り組んだ。

#### ◆山口県障害者交流スポーツフェスティバル（7月）

中学部3名、高等部8名、業務支援室3名、平川小1名の計15名が参加した。この大会は、参加者同士のスポーツを通じた交流を目的としたものであり、色々な人と声を掛け合いながら、レクボッチャ、卓球バレーと卓球の試合に参加した。（写真6）



写真6 山口県障害者交流スポーツフェスティバル

◆第17回キラリンピック（10月）

県内で最大規模の障害者のスポーツ大会であるキラリンピックに、中学部5名、高等部6名、業務支援室2名、本校教員2名の計15名が参加した。卓球、レクボッチャ、卓球バレーの部に出場した。卓球バレーは第4位入賞。（写真7）



写真7 第17回キラリンピック

◆第11回山口県障害者フライングディスク交流大会（12月）

中学部4名、高等部5名、業務支援室5名の計14名が参加した。試合には出場しないが仲間の応援に駆け付けた人もいた。ディスタンスとアキュラシーの部両方に出場。10投すべてを入れて優勝し、トロフィーをもらい仲間とともに喜びを分かち合う姿も見られた。（写真8）



写真8 第11回山口県障害者フライングディスク交流大会

◆第15回山口県障害者交流ボッチャ大会（2月）

中学部4名、高等部6名、業務支援室4名の計14名と本校教員6名が参加し、計5チームが出場した。全チームが勝利を経験し、5チーム中3チームが決勝トーナメントに出場することができた。さらに、団体戦で優勝と第3位に入賞するチームもあり、こうした成果が参加者の自信と満足感、そして「スポレク★くらぶ」へのさらなる活動意欲の向上にもつながった。（写真9）

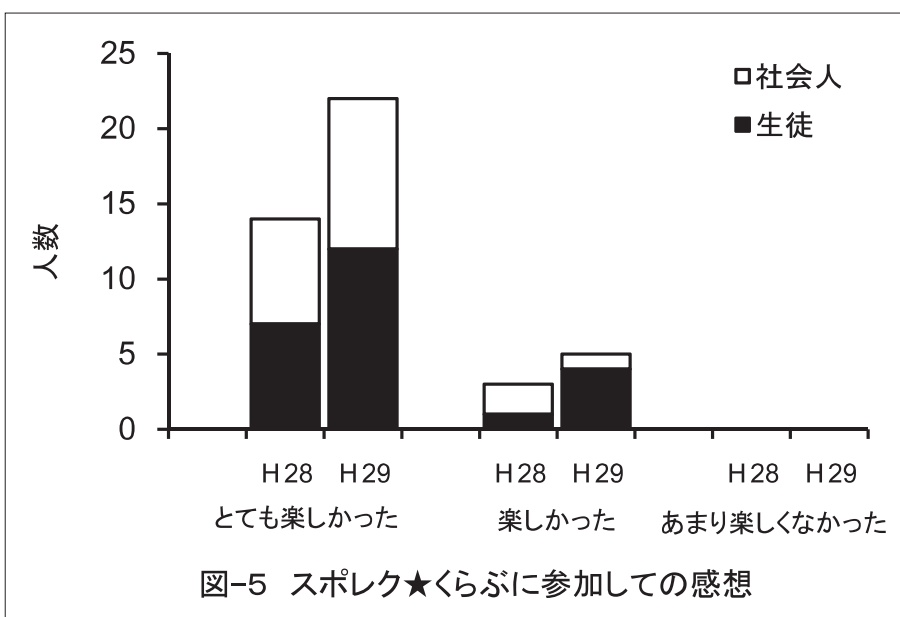


写真9 第15回山口県障害者交流ボッチャ大会

4. 成果と課題

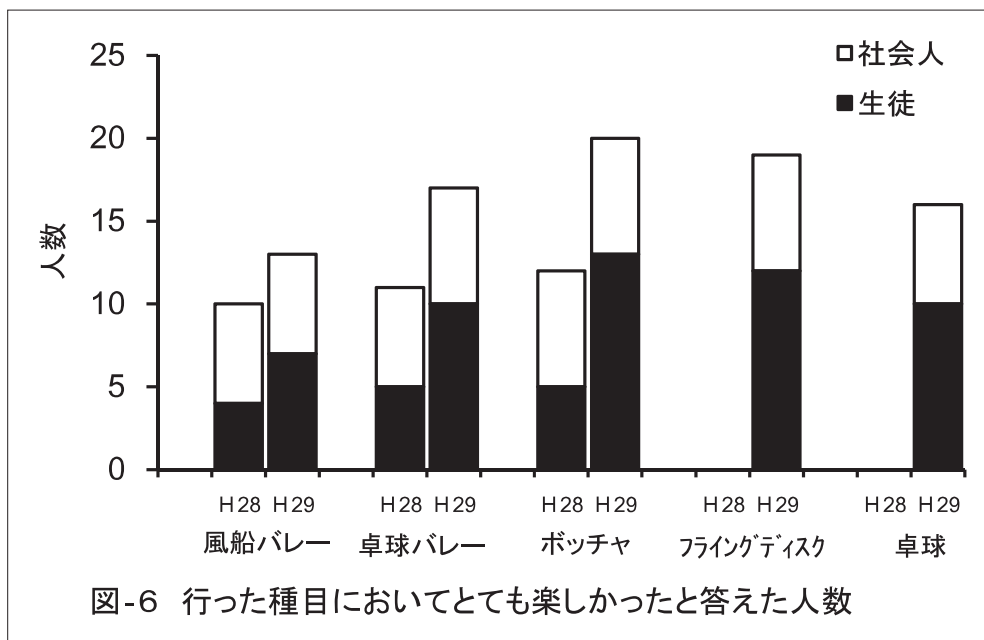
4-1 アンケート結果と考察

(1) スポレク★くらぶに参加して楽しかったか（図5）



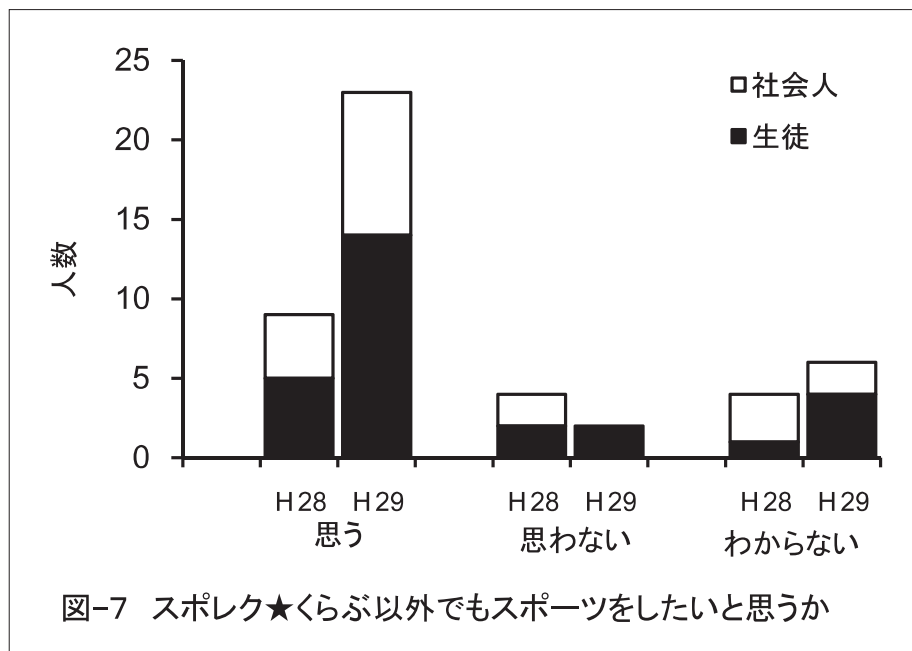
「スポレク★くらぶ」に参加してみた感想について、29年度はすべての参加者が「とても楽しかった」もしくは「楽しかった」と回答した。特に「とても楽しかった」の回答は全体の8割以上で、参加者が「スポレク★くらぶ」を楽しんで活動することができていることが分かった。

(2) 種目についての感想（とても楽しかったと答えた人数；図-6）



どの競技においても、ほとんどの参加者が「とても楽しかった」もしくは「楽しかった」と回答しており、6～7割近くが「とても楽しかった」と回答している。中でもポッチャは8割近くの参加者が「とても楽しかった」と回答しており、多くの参加者が楽しんで活動できた競技であることが分かる。今年度から始めたフライングディスクと卓球についても、とても楽しかったと答えた参加者が多かった。

(3) スポレク★くらぶ以外（学校の休み時間や家庭）でもスポーツをしたいと思うか（図-7）



学校の休み時間や家庭でもスポーツをしたいと思うかという質問に対して、7割近い参加者が「思う」と回答した。前年度と比較して、スポーツをしたいと考える参加者の割合が増加しており、参加者の余暇活動へのつながりが期待できる。

(4) スポレク★くらぶの運営に協力してもよいか（図-8）

「スポレク★くらぶ」の運営に協力してくれるかどうかについて尋ねたところ、全体の6割近くの参加者が「協力してもよい」と回答した。中でも社会人の参加者は9割以上の参加者が「協力してもよい」と回答しており、自分たちで主体的に運営に協力してもよいという考えが見える。一方で、生徒の「協力してもよ

い」の回答率は半数近くにとどまった。生徒にとっては、運営に協力するということがイメージがわきにくいかもしれない。しかし、生徒たちの多くは準備や片付けを主体的に行っており、現在も運営に協力していると言える。

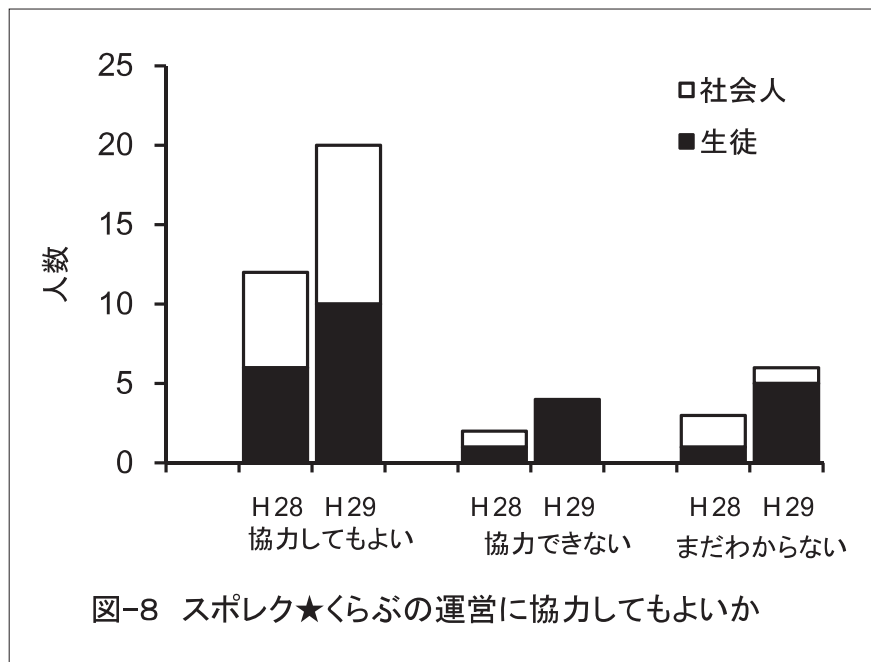


図-8 スポレク★クラブの運営に協力してもよいか

(5) 大会への参加について (図-9、10)

大会に参加した感想については、参加者の9割が「楽しかった」と回答し、「物足りなかった」「おもしろくなかった」は、一人もいなかった。また参加したいかという質問には、参加者全員が「参加したい」と回答している。大会に参加したことで、スポレク★クラブ以外の方々とも交流をしたり、競い合ったりすることで、スポーツをすることの楽しさを味わうことができ、今後の活動意欲の向上につながったと思われる。

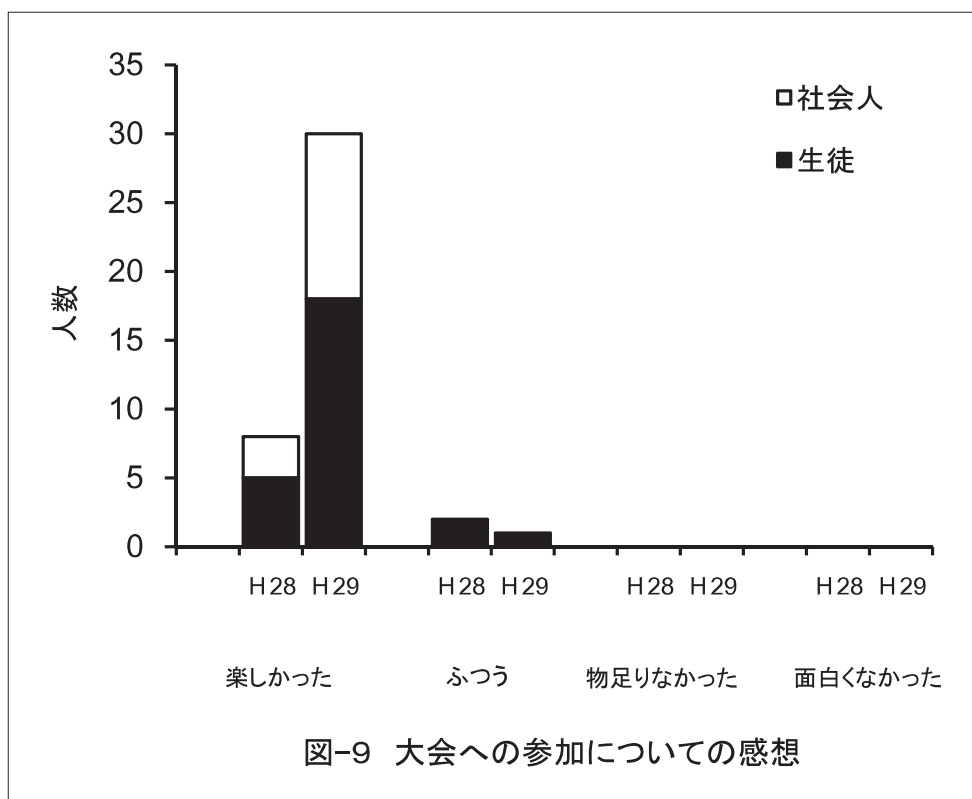
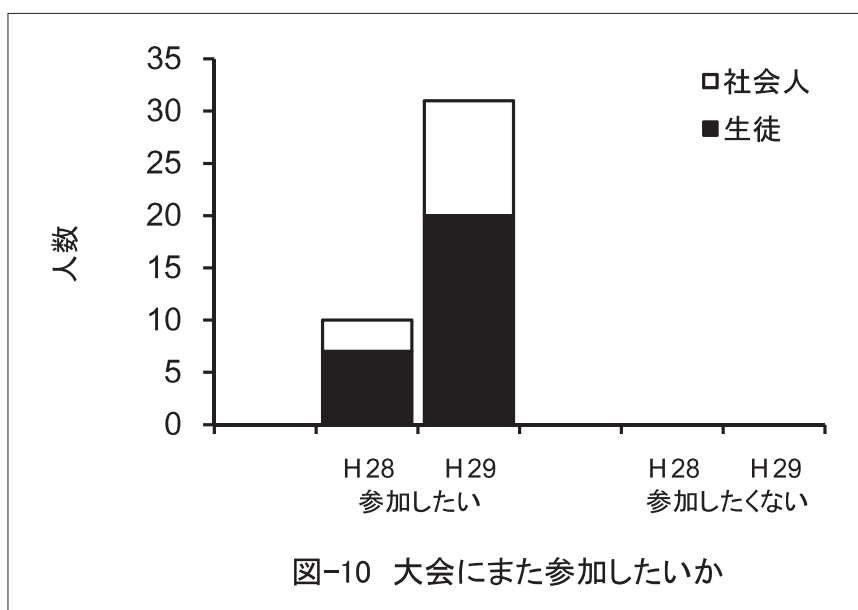


図-9 大会への参加についての感想



#### (6) 自由記述より

「スポレク★くらぶ」のどんなところが楽しいかを聞いた自由記述の回答は、以下のとおりである。（原文のまま）

##### 【生徒】

- 運動できるところが楽しい。
- 自分が好きなスポーツができて楽しいこと。
- 障害者スポーツ大会の前日に、スポレクで練習できる時間があり安心して試合に参加できる。
- みんなでの練習も楽しいです。
- 卓球をするのが楽しかったです。
- いろいろな人とできること。
- 卓球がものすごく楽しかったです。
- クラブのようにもう少し競技があるといいです。
- 卓球バレーがおもしろかったです。
- 卓球の先生（スポーツ支援員）の方と卓球をするのが、楽しかったです。
- ボッチャが、協力できて楽しかったです。
- 長時間あるいは激しく体を動かすことを好まない本人にとっても、ボッチャや卓球バレー等休み休みであったり、座ったりして協議に参加できるパターンがあり、とてもよかったと思います。
- 普段、かかわりの少ない人たちも含め、多くの人的交流がもてることも本人としてはうれしいことだったのではないかと思います。自分に合った運動を、自分のペースで、温かいかわりあいを通して行えることがよいのではないかと思います。
- フライングディスクが楽しい。
- みんなのできる。
- みんなで、仲間ですること。
- 卓球バレーの打つところが楽しい。風船バレーで、みんなで声をかけるところもとてもうれしい。
- いろいろな人と関われ、一緒にスポーツをするのが楽しい。
- フライングディスクが楽しかったです。
- いろいろなスポーツや卓球ができること。
- ボッチャとフライングディスクをもっとやりたい。

##### 【業務支援室・社会人】

- 色々なスポーツを通して成長できた。
- フライングディスクは道の世界だったので迫力があつた。



- みんなと協力しあったり、コミュニケーションを取ったりして、色々な種目に慣れるのが楽しい。
- 業務支援室スタッフ以外の方（先生や生徒さん等）と一緒に練習や交流ができたことがうれしい。
- 皆さんの笑顔がすてきです。
- 生徒さんと交流があって色々なことを話せることや、みなさんと一緒にスポーツができて笑顔があって楽しいところだと思います。
- 交流ができて最高でした。
- 風船バレーは、声掛けが必須（これは仕事と同じですね）
- 大会に参加することで、コミュニケーションが図れたり、いろんなスポーツをしたりして、得意分野を増やせること。
- 学生さんと一緒に良い交流が深まる体験ができる。
- （試合に参加した時に）とくに団結できる。
- 業務支援室のスタッフの表情が、生き活きとしている様子がみられるところ。
- （まだ参加し始めたばかりで）フライングディスクを少しやっただけなので実感があまりないが、今後色々な種目をやってみたい。
- みんなでスポーツをしながら会話をするとところが楽しいです。

#### 【保護者・教員】

- （本人が）フライングディスクに向いていることがわかった。
- （本人が）楽しそうにスポーツをしている姿を見るとうれしい。
- 風船バレーでは、飛んできた風船を見て、自分で打ち返すことはできますが、本人にとっては運動量が多く、最後まで参加し続けることが難しいのかなと思います。
- 卓球バレーでは、自分の目の前にきたピンポンを打ち返すという分かりやすさがあり、また、座ったまま競技に参加できるという本人にとってベストな状況があり楽しめました。
- ボッチャでは、目標のボールめがけて投げるという意識が高まりつつあります。スポレクでは、休める時間もあり、最も多く参加しました。
- フライングディスクでは、何度か練習をし、経験はあります。遠くにということを意識して投げることはむづかしいようです。
- 長時間あるいは激しく体を動かすことを好まない本人にとっても、ボッチャや卓球バレー等休み休みであったり、座ったりして協議に参加できるパターンがあり、とてもよかったです。
- 普段、かかわりの少ない人たちも含め、多くの人的交流がもてることも本人としてはうれしいことだったのではないかと思います。自分に合った運動を、自分のペースで、温かいかわりあいを通して行えることがよいのではないかと思います。

## 4-2 成果

本プロジェクトの成果は、以下のとおりである。

- ◇年間15回実施し、「スポレク★ファイターズ」の名前で県内の4つの大会にも参加した。本校中学部と高等部の生徒及び業務支援室の職員を中心に、平川小学校の児童や山口総合支援学校の生徒、社会人等、参加者の輪が少しずつ広がっていった。今年度より地域スポーツ推進委員やボランティアの人数も増え、参加者数が毎回40名程度と安定してきた。また、ボランティアにも参加者への支援や活動の補助を担ってもらったことで、運営が円滑になり、活動が定着してきた。
- ◇学校外の大会へ4回出場し、試合に参加することが「スポレク★くらぶ」に参加するモチベーションとなった。また、大会に参加することで地域の方と交流する喜びを感じたりすることもできた。参加者それぞれが自己やチームの目標に向かって取り組み、自己実現や社会参加の機会となった。
- ◇準備や体操、片付けを参加者が自主的に実施できるようになってきた。試合の際には、チームのキャプテンを申し出る参加者もおり、参加者間のまとまりが見られるようになってきた。
- ◇大学生がボランティアとして参加し、運営の補助に当たるとともに、参加者との交流の輪が広がり、活動の充実につながった。
- ◇保険代や大会参加費、飲み物代等を本校教育後援会より支出し、費用面で参加者の負担を軽減することで、安心して参加することができた。また、本プロジェクトより、用具代での補助があり、様々な種目

の用具を購入できた。

#### 4-3 今後に向けての課題

今後に向けての課題は、以下のとおりである。

##### ◆参加者の拡大

近隣の特別支援学校の生徒や小学校の特別支援学級の児童、社会人へと、徐々に参加者が拡大しつつあるが依然として、中学部・高等部の生徒と山口大学業務支援室のメンバーが中心であるので、さらに地域の方々への参加拡大につなげていきたい。また、「交流及び共同学習」を一緒に行った学校や地域の交流センターとも連携協力を行えるよう作成したポスターやリーフレットがより多くの人の目にとまるように、掲示や配布の方法を検討する必要がある。

##### ◆ボランティア募集方法の工夫

地域における障害者レクリエーションセンターを目指すため、運営の主體的な協力者を地域から募集する必要がある。そのため募集方法の検討が必要である。参加者募集と同様にポスターやリーフレットを作成し運営ボランティアも別に募集する。さらに、大学広報部とも連携し、学生ボランティアも募集する。

##### ◆運営母体の移行

参加者がより自主的に運営できるような体制を工夫する必要がある。

#### 参考・引用文献

- 一般社団法人山口県障害者スポーツ協会（2014）障害者スポーツみんなで楽しもう！  
公益社団法人山口県障害者スポーツ協会（2016）障害者スポーツみんなで楽しもう！ver. 2  
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会（2016）：新版障がい者スポーツ指導教本  
公益財団法人日本レクリエーション協会（2015）：CLUB for ALL 地域スポーツクラブへの障がい者スポーツ導入ガイドブック  
財団法人日本障害者スポーツ協会（2004）：みんなで楽しむ障害者スポーツ④ユニバーサルスポーツ&あそびアイデア集